

# 現代中国語の文末助詞“了”の研究

—意味的焦点からみる文末助詞“了”構文の容認度—

## A Study on the Sentence-final Particle *LE* in Modern Chinese: The Relationship Between the Semantic Focus and the Acceptability of Sentences Containing the Sentence-final Particle *LE*

鄧 宇 陽

DENG Yuyang

This paper holds that the acceptability of sentences containing the sentence-final particle *LE* is subject to many factors, one of which is the semantic focus. For example, the phenomenon of “focus grabbing” will greatly reduce the acceptability of sentences containing the sentence-final particle *LE*. This paper will discuss the acceptability of sentences containing the sentence-final particle *LE* from the perspective of semantic focus.

キーワード： 文末助詞“了”、意味的焦点、容認度

### 1. はじめに

中国語学において、語尾“了”は“了1”とも呼ばれ、文末助詞“了”は“了2”とも呼ばれる(呂叔湘 1999:351)。金立鑫(1998)から分かるように、動相的・時制的な標識としての“了2”の有無は“了2”の直前の文の命題的意味に影響を与えるが、純粹に語気を表す“了2”の有無は“了2”の直前の文の命題的意味に影響を与えない。本稿で述べている“了2”はこの動相的・時制的な標識としての“了2”である。張黎(2010:12-21)は「限界変化」(界変)義をこの動相的・時制的な標識としての“了2”の基本的意味としている。本稿はその「限界変化」義を「変化」義と呼ぶことにする。

次の(1a)は“了1”構文であり、次の(1b)は“了2”構文である。黄瓚輝(2016)によれば、“了2”構文としての(1b)は統語的に適格であるにもかかわらず、別の意味情報が付与されなければ、(1a)より理解され難い。

- (1) a. 她学了三年英语<sup>1</sup>。  
(彼女は英語を三年勉強していた。)
- b. ?她学三年英语了<sup>2</sup>。 (黄瓚辉 2016:53)  
(?彼女は英語を三年勉強していた。)

また、先行研究において、“了 2”構文は新情報を伝える機能があるということがしばしば論じられてきた<sup>3</sup>。しかし、次の (2) が示すように、「日本に留学している時、彼女は英語を三年勉強していた」という情報を新情報として A さんに伝えようとする B さんは、(2b) の下線部の“了 2”構文を用い難い。

- (2) a. A: 她不是日语专业的吗? 她为什么会讲英语?  
B: 这你就有所不知了, 在日本留学的时候, 她学了三年英语。  
(A: 彼女は日本語専門じゃないの? 何で英語がしゃべれるの?)  
(B: 実はね、日本に留学していた時、彼女は英語を三年勉強していたんだよ。)
- b. B: 这你就有所不知了, 在日本留学的时候, ?她学三年英语了。  
(B: 実はね、日本に留学していた時、?彼女は英語を三年勉強していたんだよ。)

“了 2”構文の容認度は様々な要素によって決められるが、本稿は意味的焦点という要素から“了 2”構文の容認度の問題を考察する。本稿は、“了 2”構文の容認度が意味的焦点の「焦点争奪」現象に制約されるということを主張する。

## 2. 焦点連結

焦点の概念について、祁峰 (2012:4-23) は次のように指摘している。視点や立場によって焦点の定義も違うが、どちらかという、どのような焦点であっても、「省略できない部分を際立たせる操作と、意識的かつ音韻的にストレスを際立たせる操作」<sup>4</sup>という特徴においてほぼ共通している。

次に、徐烈炯 (2017) に基づいて焦点の種類と定義を紹介する。焦点は話題的焦点 (topic focus)、対比的焦点 (contrastive focus)、情動的焦点 (informational focus)、意味的焦点 (semantic

<sup>1</sup> 出典が付与されない例文は筆者による。

<sup>2</sup> 単文の冒頭に付ける「?」は、特定の発話場面が付与されなければ理解され難い単文のこと、または、統語的に成立しても容認度が低い単文のことを指す。

<sup>3</sup> 詳細については、刘勋宁 (1998)、刘月华他 (2001)、谭春健 (2004)、肖治野・沈家煊 (2009)、杉村 (2009)、陆俭明 (2013) などを参照のこと。

<sup>4</sup> 原文は、“不可简省的突显和刻意重音的突显”である。

focus) に分けられる。ここでは主に情報的焦点と意味的焦点を紹介する。情報的焦点は機能主義言語学による概念であり、文が伝える情報における新情報のことを指す。意味的焦点は真理条件意味論・形式意味論による概念であり、ある文において焦点敏感演算子 (focus-sensitive operator) によって指示される部分である。端的に言うならば、ある文において、ある機能語が特定の文成分と意味的に・統語的に連結することができ、別の文成分とは意味的に・統語的に連結することができないとしたら、その特定の文成分はその文の意味的焦点と呼ばれ、その機能語は焦点敏感演算子と呼ばれる。

また、焦点敏感演算子と意味的焦点という両者の意味上・統語上の連結が焦点連結 (association with focus) と呼ばれる (祁峰 2012:97、徐烈炯 2017:175)。祁峰 (2012:65、114)、徐烈炯 (2017:175-176、185) によれば、焦点敏感演算子には次の2つの特徴がある。第一に、焦点敏感演算子の有無は文の真理条件<sup>5</sup>・命題の意味に影響を与える。第二に、焦点敏感演算子と意味的焦点という両者は常に意味的に連結することから、統語的に連結することもできる。つまり、意味的焦点と隣接する箇所には焦点敏感演算子が移動することができるということである。この移動の特徴は焦点敏感演算子の「浮遊性」(floating) とも呼ばれる (徐烈炯 2017:185)。

“了 2”は新情報を伝える機能があることから、情報的焦点の標識として捉えられる。ところで、それは焦点敏感演算子、すなわち意味的焦点の標識としても捉えられるであろうか。では、次の (3) を考えよう。

- (3) a. 我吃饭了。 (王艾录 1987:15)  
 (私にご飯を食べた。)
- b. ?我吃饭。 (王艾录 1987:14)  
 (?私にご飯を食べる。)

(3) が示すように、“了 2”の有無は“了 2”の直前の内容の真理条件・命題の意味に影響を与える。“了 2”のこの省略不可能の特徴は焦点敏感演算子の特徴に相当する。こうしてみれば、“了 2”は焦点敏感演算子、つまり意味的焦点の標識としても捉えられるのである。もし、焦点敏感演算子として捉えられるとしたら、“了 2”は「浮遊性」を示すはずである。つまり、“了 2”構文の意味的焦点と隣接する箇所には“了 2”が移動することができるはずで

<sup>5</sup> 形式意味論の立場では、文のモダリティの意味が除外された後の命題の意味が文の真理条件として扱われる (Langacker 2008、祁峰 2012、徐烈炯 2017)。場合によって、真理条件は、言外の意味、語用論的意味などに対して言う言内の意味、明言される意味も指す (陈新仁 2015、澤田他 2017)。

ある。しかし、文末助詞としての“了 2”はあくまでも文末という 1 箇所にはしか位置づけられないが、どのように意味的焦点と隣接する箇所に移動するか。実は、「意味的焦点+“了 2”。」という短文に短縮するという形で、“了 2”構文は“了 2”を意味的焦点と隣接する箇所へ移動させるのである。現実的には、複数の文成分が含まれる“了 2”構文が「意味的焦点+“了 2”。」という短文に短縮されるケースがよく見られる。例えば、彭利貞（2011:215）が指摘しているように、次の（4a）の下線部の“了 2”構文は（4b）の下線部の「“可以”+“了 2”。」という短文に短縮されても構わない。

(4) a. A: 我可以走了吗?

B: 你可以走了<sup>6</sup>。 (彭利貞 2011:215)

(A: 私は行ってもいいですか?)

(B: あなたは行ってもいいです。)

b. B: 可以了。<sup>7</sup>/?你了。<sup>7</sup>/?走了<sup>7</sup>。 (彭利貞 2011:215)

(B: いいです。<sup>7</sup>/?あなたです。<sup>7</sup>/?行きました。)

(4b) の「“可以”+“了 2”。」という短文において、“了 2”は相変わらず文末に位置づける一方、“可以”という意味的焦点と隣接するところに移動したと言える。このように、“了 2”は焦点敏感演算子、すなわち意味的焦点の標識として捉えられるということが分かる。

第 4 節から、(4) が示す短縮法で“了 2”構文の意味的焦点の位置を検証する。

### 3. 「述語優先」原則と「焦点争奪」現象

黄瓚辉（2016）が指摘するように、“了 2”構文は次の 2 種類の言語現象を示す。第一に、“了 2”構文の言語形式が文成分が少ない「简单形式」（简单形式）であれば、“了 2”構文の焦点は述語という文成分に当てられる。本稿はこの言語現象が映す原則を“了 2”構文の「述語優先」原則と呼ぶことにする。つまり、“了 2”構文の焦点を特定できる発話場面が付与されない場合、その焦点は優先的に述語に当てられるということである。第二に、“了 2”構文の言語形式が文成分が多い「複雑形式」（复杂形式）であれば、述語以外の文成分が述語という文成分と焦点位置を争う可能性があり、その“了 2”構文の容認度は低くなる可能

<sup>6</sup> (4a) の B 文は、彭利貞（2011:215）の原文“可以了。（可以走了。/可以。/走吧!/走!/\*走了。）”を書き換えたものである。

<sup>7</sup> (4b) の B 文は、彭利貞（2011:215）の原文“可以了。（可以走了。/可以。/走吧!/走!/\*走了。）”を書き換えたものである。

性もある。本稿はこの言語現象を“了2”構文の「焦点争奪」現象と呼ぶことにする。もともと黄瓚辉（2016）に述べられている焦点は“了2”構文の情動的焦点である。一方、その情動的焦点が“了2”の時間的意味との間に「密接な意味的関連性」（密切的语义关联）があるとも指摘されている（黄瓚辉 2016:53）。つまり、“了2”構文の情動的焦点が“了2”と意味的に連結するということが分かる。そのため、本稿は、“了2”構文の「述語優先」原則と「焦点争奪」現象が指示する焦点は情動的焦点だけでなく、意味的焦点でもあると主張する。

#### 4. メタ発話場面における“了2”構文の容認度

どのような文でも一定の発話場面に用いられる。ある文の発話場面について、次の2種類が考えられる。一つは、ある文自身が示す意味情報とその文以外の意味情報という両方が含まれる発話場面である。もう一つは、ある文が示す意味情報だけが含まれ、その文以上の意味情報は含まれない発話場面である。本稿は後者の発話場면을“了2”構文のメタ発話場面と呼ぶことにする。次に、(4a)全体が示す発話場面は(4a)の“你可以走了”という“了2”構文のメタ発話場面である理由を説明しておく。まず、(4a)から分かるように、“我可以走了吗”と“你可以走了”という2つの文は“你可以走了”という“了2”構文の発話場면을成す。また、“你可以走了”という“了2”構文が示す意味情報は「Aさんは行ってもいい」ということである。さらに、(4a)が示す発話場面、つまり“我可以走了吗”と“你可以走了”という2つの文からなる発話場面には、「Aさんは行ってもいい」という意味情報だけが含まれ、それ以上の意味情報は含まれない。このように、(4a)が示す発話場面は“你可以走了”という“了2”構文のメタ発話場面であるということが分かる。

##### 4.1. 「简单形式」の“了2”構文である場合

通常中国語の文成分は主語、述語、目的語、連体修飾語、連用修飾語、補語という6種類に分けられる（守屋 1995:148、陆俭明 2013:62-81）。「简单形式」の“了2”構文はどのような文成分から構成されるのかについて、黄瓚辉（2016）には説明されていない。黄瓚辉（2016）に取り上げられている例文からみれば、いわゆる「简单形式」は、連体修飾語、連用修飾語、語尾的補語以外の補語が付与されないという構文的特徴を持つということが分かる。

次の(5) - (7)は“了2”構文であり、いずれにおいても連体修飾語、連用修飾語、語尾的補語以外の補語が付与されていない。そのため、黄瓚辉（2016）に述べられている「简单形式」の特徴に合う。また、「简单形式」としての(5) - (7)はメタ発話場面に用いられても、容認度が高い文として捉えられる。

- (5) 下雨了。 (陈小红 2007:58)  
(雨が降った。)
- (6) 他见到她了。 (陈小红 2007:58)  
(彼は彼女を見かけた。)
- (7) 他吃了饭了。 (陈小红 2007:56)  
(彼はご飯を食べた。)

(5) - (7) は「简单形式」であることから、黄瓚辉 (2016) の観点からみれば、(5) - (7) において「述語優先」原則が働き、「焦点争奪」現象は起こらないはずである。「述語優先」原則というのは、文の意味的焦点が述語に当てられるということである。次に、(5) - (7) の意味的焦点が果たして述語に当てられるかどうかを (4) が示す短縮法で検証してみよう。

(8) < (5) の焦点検証 >

A: 下雨了?

B: 下了。/?雨了。

(A: 雨が降ったか?)

(B: 降った。/?雨になった。)

(9) < (6) の焦点検証 >

A: 他见到她了?

B: 见到了。/?他了。/?她了。

(A: 彼は彼女を見かけたのか?)

(B: 見かけた。/?彼になった。/?彼女になった。)

(10) < (7) の焦点検証 >

A: 他吃了饭了?

B: 吃(了)了<sup>8</sup>。/?他了。/?饭了。

(A: 彼はご飯を食べたか?)

(B: 食べた。/?彼になった。/?ご飯になった。)

---

<sup>8</sup> 朱德熙 (1982)、王维贤 (1997)、吕叔湘 (1999) から分かるように、“了1”と“了2”は隣接すれば、形式的には1つの“了”だけで表記される。

検証した結果、(5) - (7)の意味的焦点は確かに述語に当てられるということが分かった。意味的焦点が述語に当てられるので、「焦点争奪」現象は起こらないということも分かった。このように、メタ発話場面においても、(5) - (7)は容認度が高い文として捉えられる。

#### 4.2. 「複雑形式」の“了2”構文である場合

(1b)の“了2”構文は、“三年”という連体修飾語が付与されるため、黄瓚輝(2016)が述べている「複雑形式」の特徴に合う。次に、(1b)の意味的焦点はどの文成分に当てられるのかを検証してみよう。

(11) <(1b)の焦点検証>

A: 她学三年英语了?<sup>9</sup>

B: 对, 三年了。/对, ?学(英语)了。/对, ?她了。/对, ?英语了。

(A: 彼女は英語を三年も勉強していたの?)

(B: そうよ、三年だよ。/そうよ、?(英語を)勉強していたよ。/そうよ、?彼女だよ。/そうよ、?英語だよ。)

焦点検証を行った結果、(1b)の意味的焦点は“三年”という量的連体修飾語に当てられやすいが、“学”という述語には当てられ難いということが分かった。しかし、(1b)は、別の発話場面が付与されない“了2”構文であるため、“了2”構文の焦点を特定できる発話場面が付与されない場合、その焦点は優先的に述語に当てられる」という「述語優先」原則に合う。このように、述語“学”と量的連体修飾語“三年”の間には「焦点争奪」現象が生じる。先行研究において、別の発話場面が付与されなければ(1b)は容認度が低い文として扱われやすいと指摘される理由は、まさにこの「焦点争奪」現象に関わっているのである。

次の(12b)には“得真好听”という語尾の補語以外の補語が付与され、次の(13b)には“随随便便地”という様態の連用修飾語が付与され、次の(14b)には“一边”という副詞的連用修飾語が付与される。(12b) - (14b)の“了2”構文はいずれも黄瓚輝(2016)が述べている「複雑形式」の特徴に合う。

<sup>9</sup> (1b)では“?她学三年英语了。”という平叙文の冒頭には「?」を付けているが、(11)では“她学三年英语了?”という疑問文の冒頭には「?」を付けていない。この相違点について注意されたい。「注2」で説明したように、冒頭に「?」が付けられる文は、統語的に成立しても、特定の発話場面が付与されなければ理解され難いものである。ここの目的は、特定の発話場面が付与されない場合における“她学三年英语了”という文の容認度がどうかを明らかにすることでなく、“她学三年英语了”という文の“了2”がどの文成分と意味的に連結しやすいのかを明らかにすることである。そのため、ここでは“她学三年英语了”という文を「ある発話場面において理解されやすい文」として想定しており、(11)の疑問文の冒頭には「?」を付けていないわけである。

- (12) a. 他唱歌唱得真好听。(王珊珊 2014:139)  
(彼はうまく歌える。)
- b. ?他唱歌唱得真好听了。(王珊珊 2014:139)  
(?彼はうまく歌った。/?彼はうまく歌えるようになってきている。)
- (13) a. 他随随便便地回答了我。(杨凯荣 2013:33)  
(彼に勝手に答えられた。)
- b. ?他随随便便地回答我了。(杨凯荣 2013:33)  
(?彼に勝手に答えられた。/?彼に勝手に答えられるようになってきた。)
- (14) a. 弟弟昨天一边看电视, 一边做作业。(杨凯荣 2013:41)  
(弟は昨日テレビを見ながら、宿題をしていた。)
- b. ?弟弟昨天一边看电视, 一边做作业了。(杨凯荣 2013:41)  
(?弟は昨日テレビを見ながら、宿題をしていた。/?弟は昨日からテレビを見ながら、宿題をするようになってきた。)

次に、(12b) - (14b) の“了”構文の意味的焦点の位置を検証してみよう。

(15) < (12b) の焦点検証>

A: 他唱歌唱得真好听了?

B: 对的, 真好听了。/?对的, ?唱了。

(A: 彼はうまく歌えるようになってきているの?)

(B: そうよ, うまくなってきているよ。/?そうよ, ?歌ったよ。)

(16) < (13b) の焦点検証>

A: 他随随便便地回答你了?

B: 是的, 随随便便地了。/?是的, ?回答了。

(A: 彼に勝手に答えられるようになったのか/?彼に勝手に答えられたの?)

(B: そう, 勝手になった。/?そう, ?答えられた。)

(17) < (14b) の焦点検証>

A: 弟弟昨天一边看电视一边做作业了?

B: 对的, 一边 (看电视) 一边 (做作业) 了。/?对, ?看了, 做了。



(A: 弟は昨日からテレビを見ながら宿題をするようになってきたの?)

(B: そう、(テレビを見ながら)宿題をするようになってきた。/そう、?見た。また、した。)

焦点検証を行った結果、(12b) - (14b) の意味的焦点はすべて述語以外の文成分に当てられやすく、述語には当てられ難いということが分かった。例えば、(12b) では“得真好听”という文成分に当てられやすく、(13b) では“随随便便地”という文成分に当てられやすく、(14b) では“一边”という文成分に当てられやすい。この焦点検証の結果は「述語優先」原則と矛盾するので、「焦点争奪」現象は生じる。そのため、楊凱榮 (2013)、王珊珊 (2014) が指摘するように、(12) - (14) では a 例も b 例も統語的に適格であるにもかかわらず、別の意味情報が付与されなければ、b 例のほうが容認度が低い文として扱われやすい。

“常常”、“又”、“终于”、「予想以上に早く」という意味を表す“就”、「予想以上に遅く」という意味を表す“才”などの副詞的連用修飾語も考えよう。これらの副詞的連用修飾語が含まれる“了 2”構文も黄瓚輝 (2016) が述べている「複雑形式」の特徴に合う。では、これらの「複雑形式」の“了 2”構文の容認度はどうであろうか。先行研究では、“常常”、“经常”、“总是”、“每次”、“有时”、“偶尔”などの頻度的副詞が“了 2”と共に起し難いとよく指摘されている<sup>10</sup>。次の (18) をみよう。

(18) a. 他常常喝啤酒。

(彼はよくビールを飲む。)

b. ?他常常喝啤酒了。

(黄瓚輝 2016:48)

(?彼はよくビールを飲む。)

次に、容認度が低い (18b) の意味的焦点の位置を検証してみよう。

(19) < (18b) の焦点検証 >

A: 他常常喝啤酒了?

B: 是的, 常常了。/是的, ?喝了。

(A: 彼はよくビールを飲むようになってきたか?)

(B: そう、そう、よく(飲むように)なってきた。/?飲んだ。)

<sup>10</sup> 譚春健 (2004)、黎莉・胡骏 (2004)、黄瓚輝・石定栩 (2013)、黄瓚輝 (2016)、夏炎青 (2017) などを参照のこと。

(19) が示すように、(18b) の“了 2”構文の意味的焦点は“常常”という副詞的連用修飾語に当てられやすいが、“喝”という述語には当てられ難い。この結果は「述語優先」原則と矛盾する。このように、述語と述語以外の文成分の間には「焦点争奪」現象が生じる。そのため、別の意味情報が付与されなければ、(18b) は容認度が低い文と扱われやすい。

次の(20)、(21) はそれぞれ“又”、“终于”という副詞的連用修飾語が付与される“了 2”構文であり、「複雑形式」の“了 2”構文でもあるが、(18b) と違って、メタ発話場面においても、容認度が高い文として扱われやすい。それはなぜであろうか。

(20) 昨天他又看电视了。 (譚春健 2004:29)

(昨日彼はまたテレビを見た。)

(21) 那段可怕的日子终于结束了。 (CCL)

(その恐ろしい日々がやっと終わった。)

次に、(20)、(21) の意味的焦点の位置を検証してみよう。

(22) < (20) の焦点検証>

A: 昨天他又看电视了?

B: 是的, 看了。/是的, 又 (看) 了。

(A: 昨日彼はまたテレビを見たのか。/昨日彼はまたテレビを見るようになってきたのか?)

(B: そう、見た。/そう、また(見た)。)

(23) < (21) の焦点検証>

A: 那段可怕的日子终于结束了?

B: 是的, 结束了。/是的, 终于 (结束) 了。

(A: その恐ろしい日々がやっと終わったのか?)

(B: はい、終わった。/はい、やっと(終わった)。)

焦点検証の結果から明らかなように、(20)、(21) の意味的焦点は“又”、“终于”という述語以外の文成分に自然に当てられることができる他に、“看”、“结束”という述語にも自然に当てられることができる。「述語にも自然に当てられることができる」という結果は、「了

2”構文の焦点を特定できる発話場面が付与されない場合、その焦点は優先的に述語に当てられる」という「述語優先」原則に反していない。つまり、「述語にも自然に当てられることができる」という結果のもとに、聞き手は「述語優先」原則にしたがって、(20)、(21)の意味的焦点が述語であると想定することができる。「述語以外の文成分に自然に当てられることができる他に、述語にも自然に当てられることができる」という結果は「述語優先」原則と調和することができるため、「焦点争奪」現象は生じない。そのため、(20)、(21)はメタ発話場面に用いられても、容認度が高い文として捉えられる。

メタ発話場面の場合、“了2”は“就”（予想以上に早く）と共起しやすく、“才”（予想以上に遅く）とは共起し難いとよく指摘されている<sup>11</sup>。例えば、楊凱榮（2013）が指摘するように、(24)のほうが(25)より容認度が高い。

(24) 他 12 点就睡了。 (楊凱榮 2013:31)

(彼はいつもより早く 12 時に寝た。)

(25) ?他 12 点才睡了。 (楊凱榮 2013:31)

(?彼はいつもより遅く 12 時に寝た。/?彼はいつもより遅く 12 時に寝るようになった。)

(24)、(25)の容認度が違う理由は様々な側面から説明されることが可能である。意味的焦点という側面から説明されることも可能である。次に、(24)、(25)の意味的焦点の位置を検証してみよう。

(26) < (24) の焦点検証 >

A: 他 12 点就睡了?

B: 对, 睡了。/对, (12 点) 就 (睡) 了。

(A: 彼はいつもより早く 12 時に寝たのか?)

(B: そう、寝た。/そう、いつもより早く(12 時に寝るように)なった。)

(27) < (25) の焦点検証 >

A: 他 12 点才睡了?

B: 对呀, ?睡了。/对呀, (12 点) 才 (睡) 了。

(A: 彼はいつもより遅く 12 時に寝るようになったのか?)

(B: そう、?寝た。/そう、いつもより遅く(12 時に寝るように)なった。)

<sup>11</sup> 岳中奇（2000）、黎莉・胡弢（2004）、顾阳（2007）、金立鑫・于秀金（2013）などを参照のこと。

(26) が示すように、(24) の意味的焦点は“就”（予想以上に早く）という述語以外の文成分に自然に当てられることができる他に、“睡”という述語にも自然に当てられることができる。この結果は「述語優先」原則に反していない。そのため、(24) においては「焦点争奪」現象が生じない。このように、(24) は容認度が高い文と判断されやすい。一方、(27) が示すように、(25) の意味的焦点は“才”（予想以上に遅く）という述語以外の文成分に当てられやすいが、“睡”という述語には当てられ難い。この結果は「述語優先」原則と矛盾する。そのため、「焦点争奪」現象が生じる。このように、別の意味情報や発話場面が付与されなければ、(25) は容認度が低い文と判断されやすい。

## 5. 意味的焦点を特定できる発話場面における“了 2”構文の容認度

“了 2”の基本的意味は「変化」義であるので、「変化」する対象というのが、“了 2”と意味的に連結する対象であり、つまり“了 2”構文の意味的焦点であるということが分かる。このように、「変化」する対象を特定できる発話場面は意味的焦点を特定できる発話場面でもあるということが分かる。本稿は、メタ発話場面に用いられると容認度が低い“了 2”構文であっても、意味的焦点を特定できる発話場面に用いられると、その容認度が高くなると主張する。

(13b)、(14b) で説明する。4.2 節で説明したように、(13b)、(14b) の述語の焦点位置を奪いやすい文成分は“随随便便地”という様態的連用修飾語と“一边”という副詞的連用修飾語である。もし、「(13b) の意味的焦点は“随随便便地”である」という意味情報が含まれる発話場面において (13b) が用いられ、「(14b) の意味的焦点は“一边”である」という意味情報が含まれる発話場面において (14b) が用いられるとしたら、(13b)、(14b) の容認度は果たして高くなるのであろうか。次の (28)、(29) を考えよう。

### (28) <発話場面>

我对闺蜜说：“我觉得最近我男朋友对我的态度变了。”闺蜜问：“怎么了？”我说：“你看，以前，无论我问他什么问题，他都会很认真地回答我。但最近，我问他问题时，他随随便便地回答我了，不像以前那么认真了。”闺蜜向我确认：“他的态度真的变成那样了吗？”我肯定地说：“真的，随随便便地了。”

（私は親友に、「最近、何だか彼氏の態度がおかしくなってきた。」と訴えた。親友は「どうしたの?」と聞いた。私は、「ほら、この前は、彼に何のことを聞いても、すべてまじめに答えてもらっていたけれど、最近は、聞いてみたら、彼に勝手に答

えられるようになった。この前のようなまじめな態度がもう見られなくなっちゃった。」と返事した。親友は「彼氏の態度が本当にそうなっちゃったの?」と確認して、私は「そうよ、勝手(な態度)になった。」と答えた。」

(29) <発話場面>

我和朋友聊天时，说到自己弟弟最近的一些行为发生了一些变化。我说：“最近，我弟弟变了。以前，弟弟看电视的话就只看电视，做作业的话就只做作业。但是，弟弟昨天一边看电视，一边做作业了。”

(私は、最近弟の習慣が変わったということについて友達にしゃべって、次のことを言った。「最近、何だか弟は変わった。昔、弟はテレビを見るならテレビを見るだけで、宿題をするなら宿題をするだけだった。しかし、弟は昨日からテレビを見ながら、宿題をするようになった。」)

(28) が示す発話場面には、“他随随便便地回答我了”という“了2”構文が示す意味情報だけでなく、様々別の意味情報も含まれる。そのため、(28) が示す発話場面は“他随随便便地回答我了”という文のメタ発話場面ではない。また、(28) が示す発話場面を通して““很认真地”→“随随便便地””という「変化」する対象を特定できるため、“他随随便便地回答我了”という“了2”構文の意味的焦点は“随随便便地”であることが分かる。(28) の発話場面を通して“他随随便便地回答我了”の意味的焦点を特定できるので、「焦点争奪」現象は生じない。そのため、“他随随便便地回答我了”は (28) に用いられると容認度が高くなる。また、(29) が示す発話場面では、“只”→“一边”という「変化」する対象を特定できるため、“弟弟昨天一边看电视，一边做作业了”という“了2”構文の意味的焦点は“一边”であることが分かる。こうして、“弟弟昨天一边看电视，一边做作业了”は (29) に用いられると容認度が高くなる。

実は、ある“了2”構文において、どのような文成分でもその“了2”構文の意味的焦点になることができる。この点について、鄧宇陽 (2021) において詳しく論じられている。

刘丹青 (1995) などは中国語が統語的特徴より、意味的特徴と語用論的特徴が際立つ言語であると主張している。“了2”の存在がこの主張を裏付ける重要な証拠の1つであると言っても過言ではない。なぜならば、本節で論じたように、メタ発話場面の場合、一部の“了2”構文は統語的に適格であるにもかかわらず、語用論的には容認度が低いからである。

語用論的拡充 (pragmatic enrichment) という語用論的機能が働くことから<sup>12</sup>、先行研究で言及される中国語の「体言+“了 2”」構文は複数の文成分が含まれる“了 2”構文に拡充されることができる。逆に考えれば、焦点連結という意味的機能が働くことから、複数の文成分が含まれる“了 2”構文は「体言+“了 2”」構文に短縮されることができるのである。このように、邢福义 (1984) などにおいて述べられている「体言+“了 2”」構文の本質は本稿で述べている「意味的焦点+“了 2”」構文であるということも明らかになった。

## 6. 終わりに

本稿は意味的焦点という側面から“了 2”構文の容認度を考察した。その結果、“了 2”構文の容認度は意味的焦点の「焦点争奪」現象に制約されるということを明らかにした。

## 参考文献

- 陈小红 (2007) 〈“了 1”、“了 2”语法意义辨疑〉《语言教学与研究》5, pp.54-60.
- 陈新仁 (2015) 〈语文学与语用学的分界:一种新方案〉《外语教学与研究》6, pp.838-849.
- 鄧宇陽 (2021) 『中国語の文末助詞“了”の意味体系の構築—認知意味論の観点から—』新潟大学博士学位論文.
- 顾阳 (2007) 〈时态、时制理论与汉语时间参照〉《语言科学》4, pp.22-38.
- 黄瓚辉 (2016) 〈“了 2”对事件的存在量化及标记事件焦点的功能〉《世界汉语教学》1, pp.42-58.
- 黄瓚辉・石定栩 (2013) 〈量化事件的“每”结构〉《世界汉语教学》3, pp.305-318.
- 金立鑫 (1998) 〈试论“了”的时体特征〉《语言教学与研究》1, pp.105-119.
- 金立鑫・于秀金 (2013) 〈“就/才”句法结构与“了”的兼容性问题〉《汉语学习》3, pp.3-14.
- Langacker, Ronald (2008) *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*. Oxford University Press.[山梨正明 (監訳) (2012) 『認知文法論序説』研究社.]
- 黎莉・胡弢 (2004) 〈试析“V+了 1+NP”和“V+了 1+NP+了 2”的时间性特征〉《江西教育学院学报》6, pp.126-128.
- 刘丹青 (1995) 〈语义优先还是语用优先〉《语文研究》2, pp.10-15.
- 刘勋宁 (1998) 《现代汉语研究》北京语言文化大学出版社.
- 刘月华・潘文娉・故韡 (2001) 《实用现代汉语语法》商务印书馆.
- 陆俭明 (2013) 《现代汉语语法研究教程 (第四版)》北京大学出版社.
- 吕叔湘 (1999) 《现代汉语八百词 (增订本)》商务印书馆.
- 守屋宏則 (1995) 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店.
- 彭利贞 (2011) 《从语义到语法》中国社会科学出版社.

<sup>12</sup> ある文自体に内包される意味特徴や構文特徴から推論して意味を得るという過程は語用論的拡充と呼ばれる (陈新仁 2015)。

- 祁峰 (2012) 《现代汉语焦点研究》上海復旦大学博士学位論文.
- 澤田淳・小野寺典子・東泉裕子 (2017) 「周辺部研究の基礎知識」小野寺典子 (編) 『発話のはじめと終わり:語用論的調節のなされる場所』, pp.3-51, ひつじ書房.
- 杉村博文 (2009) 〈事件脚本和“了2”の用法表述〉《对外汉语研究》1, pp.1-12.
- 譚春健 (2004) 〈句尾“了”构成的句式、语义及语用功能〉《汉语学习》2, pp.26-31.
- 王艾录 (1987) 〈说“了2”〉《汉语学习》6, pp.13-15.
- 王珊珊 (2014) 〈陈述句末“了”能否省略情形考察〉《教育教学论坛》31, pp.138-139.
- 王维贤 (1997) 《现代汉语语法理论研究》语文出版社.
- 夏炎青 (2017) 《现代汉语句末助词“了”的句法语义属性及其对语序的影响》上海外国語大学博士学位論文.
- 肖治野・沈家煊 (2009) 〈“了2”的行、知、言三域〉《中国语文》6, pp.518-527.
- 邢福义 (1984) 〈说“NP了”句式〉《语文研究》3, pp.21-26.
- 徐烈炯 (2017) 〈焦点的不同概念及其在汉语中的表现形式〉《现代中国语研究 (中国語版)》2, pp.172-190.
- 杨凯荣 (2013) 〈从表达功能看“了”的隐现动因〉《汉语学习》5, pp.31-43.
- 岳中奇 (2000) 〈“才”、“就”句中“了”的对立分布与体意义的表述〉《语文研究》3, pp.19-27.
- 张黎 (2010) 〈现代汉语“了”的语法意义的认知类型学解释〉《汉语学习》6, pp.12-21.
- 朱德熙 (1982) 《语法讲义》商务印书馆.